



ぐんま200年健康住宅 ニュースレター

第3回検討会議 盛大に開催

2月7日 群馬県庁で 60名が参加

広島県から
「広島EDSプロジェクト」
が応援参加

お知らせ

「ぐんま200年健康住宅」検討会議は、次のようなコンセプトのもとに、安心・安全を保てる木造住宅を造ろうとしています。

- 1 県産材の利用率を高め地域の素材を活かして、有効に使う。
- 2 長持ちする家、資産として残る家を作る。
- 3 地震や腐食、白蟻などから人と財産を守る。
- 4 住む人に有害となる材料は使用しない。
- 5 工務店と顧客との信頼関係を継続する。
- 6 建設廃棄物の少ない設計・施工を工夫。
- 7 顧客と共に環境保全型住宅造りを目指す。
- 8 持続可能な社会作り、環境との共生を目指す。
- 9 人と木の暖かい関係を取り戻す。
- 10 群馬の技術とポリシーを国内外に伝える。

「ぐんま200年住宅」第3回検討会議は08年2月7日(木) 群馬県庁291会議室で工務店など約60名が参加し開催された。

新年を迎え初めての検討会議には新たなメンバー16社が加わった。プレゼン用のスクリーンが2基設置された会場にはカットモデルや製品のサンプル、展示用パネルも並べられ、開会前から名刺交換で熱気に包まれた。今回から「(株)匠の杜工房」の梅田女史が司会担当となり、歯切れの良い進行により宮島委員長と県の松根次長が挨拶した後、新規参加者の紹介が行われ、議事に入った。

情勢報告のあと宮島委員長が検討会議の企画構想案をパワーポイントで説明、「新たな価値創造に向けた12項目」を設定して会員の取り組むべき方向を判りやすく解説した。同時に、検討会議のロゴマークを提案し(紙面上に掲載)、地域の山から供給される素材を用い、ユーザーに安心して使ってもらえるブランドとしてハードとソフトが一体化したシ



宮島委員長の説明に聞き入る参加者

ステムを提供し、価値の高い提案を作り上げたいと締めくくった。

設計監理部会の野口さんから構造設計の進め方と公的機関などの認証・認定の進め方について、耐震対策用のシェルターモデルを使って説明を受け、関口工務店(及び関口建築設計研究所)からは計画中のモデル住宅について白川郷の大屋根をモチーフとした設計をアニメーションを駆使しての発表、匠の杜工房の宮尾さんから工務店宣言(案)についてなど、それぞれ担当する部門毎に具体的な提案が行われた。検討会議のポリシーをユーザーにも理解して貰おうとの趣旨で工務店から招待された「施主」の皆さん【ユーザー(予定者)が2家族】が飛び入り参加、最後まで見学して頂いたのはうれしい出来事であった。

第4号目次:

- 第3回検討会議開催 1
- 会場スナップと 発言紹介 1 ~ 2
- 新たな協力・協賛法人 2
- 建設業協会吾妻支部で第3回勉強会 2



← 名刺交換も真剣

壁材には稚内珪藻頁岩を!(ナトゥア・ジャパン) →

会場

スナップ

カットモデルや サンプルを熱心に見る参加者 ↓



↑ 真空ガラスタイプの木製窓試作品を説明する 日本板硝子(関東販売高井氏、鈴木製作所鈴木氏)



